

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月3日

## 【評価実施概要】

|       |   |
|-------|---|
| 事業所番号 | 1174500262  |
| 法人名   | 株式会社日本社会事業開発研究所                                   |
| 事業所名  | グループホームかきの木苑                                      |
| 所在地   | 369-1211 埼玉県大里郡寄居町大字赤浜2787-2<br>(電話) 048-577-2030 |

|       |  |
|-------|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター           |
| 所在地   | 330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ |
| 訪問調査日 | 平成20年3月27日                               |

## 【情報提供票より】(2008年3月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |           |                        |     |
|-------|-----------|------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成12年4月1日 |                        |     |
| ユニット数 | 1 ユニット    | 利用定員数計                 | 9 人 |
| 職員数   | 5 人       | 常勤 4人, 非常勤 1人, 常勤換算 4人 |     |

### (2) 建物概要

|      |           |  |  |
|------|-----------|--|--|
| 建物構造 | 木造準耐火平屋造り |  |  |
|      | 1階建ての1階部分 |  |  |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |            |                |              |
|---------------------|------------|----------------|--------------|
| 家賃(平均月額)            | 50,000 円   | その他の経費(月額)     | 22,500円 + 実費 |
| 敷金                  | 無          |                |              |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無          | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無        |
| 食材料費                | 朝食         | 400 円          | 昼食 450 円     |
|                     | 夕食         | 500 円          | おやつ 150 円    |
|                     | または1日当たり 円 |                |              |

### (4) 利用者の概要(3月10日現在)

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名     | 男性 3 名  | 女性 6 名  |
| 要介護1  | 0 名     | 要介護2    | 2 名     |
| 要介護3  | 1 名     | 要介護4    | 3 名     |
| 要介護5  | 3 名     | 要支援2    | 0 名     |
| 年齢    | 平均 81 歳 | 最低 66 歳 | 最高 92 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | 小川赤十字病院、藤野クリニック |
|---------|-----------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2000年に開設された当ホームは、グループホームとデイサービスを各5ヶ所持つ株式会社の事業所である。1つのフロアにグループホームとデイサービスが混在している。敷地内には、第2かきの木苑が併設されている。また、デイサービスを利用しながら、宿泊ケアが出来る関連事業所もあり、小規模多機能性も有している。そのため、他事業所からの職員の応援も期待でき、会社が実施する研修も多様である。道路を挟んでホームのすぐ前に畑が広がり、四季おりおりの自然を楽しめる環境である。ホームの名のとおり、庭には大きな柿の木があり、その木がしっかりと根をはるように、地域に根ざして貢献する願いを込めている。この庭で行われる納涼祭は500名規模であり、全事業所の利用者と家族を中心に、関係者や地域の人々が集い楽しんでおり、職員が明るく元気なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題であった「気軽に入れる玄関まわりの配慮」については、職員との話し合いで花を置くなどの改善の努力をしている。「介護計画への利用者や家族の意見の反映」、「鍵をかけない工夫」については、今年度に課題は持ち越されている。</p>                                   |
|      | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の回数を重ねているので、運営者、管理者は自己評価の意義を理解して取り組んでいる。</p>   |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営規定には運営推進会議の設置が謳われているが、開催には至っていない。一方で、地域に根ざした取り組みがなされ、関係者との連携や関係は図られている。</p>   |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>重要事項説明書には苦情の窓口を明記し、入居時にも説明している。家族からの要望を運営に反映させるには至っていないが、職員は面会時に話を聴いたり、毎月利用者の様子を書面で送るなどして不安の解消に努めている。</p>   |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して地域の清掃やゴミ当番を行っている。また、近隣の方からは、採れたての野菜をいただいたり、事業所のイベントである納涼祭には地域の方々をお招きするなどの交流が図られている。その他、ボランティアの導入や学生の介護実習の受け入れをしている。なお、幼稚園児の訪問は、利用者の方に大変喜ばれ職員ともども歓迎している。</p> |

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                     |
|-----------------------|----|--|--|-------|---|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |  |       |   |
| 1. 理念と共有              |    |  |  |       |   |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 会社の運営方針を理念として、玄関に掲示している。運営規定には、「地域との結びつきを重視する」とあり、実践もしているが、理念には謳われていない。  |       | ホーム独自の理念の構築を考えているため、その中に地域密着型サービスの理念も盛り込まれることを期待したい。                  |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員会議やミーティング、昼礼等の中で、ことある毎に理念に立ち返ることを話し、職員間で共有を図っている。  |       |   |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |  |       |   |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 自治会に加入し、地域住民として地域の清掃やゴミ当番に参加している。また、近隣の方から、畑の収穫物をいただいたり、事業所主催のイベントである納涼祭には地域の人々を招くなど交流を図っている。その他、ボランティアを導入したり、実習生の受け入れ、幼稚園児の訪問などもある。 |       |   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |  |       |   |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 3回目の評価であり評価の意義を理解し、管理者はスタッフと話し合い、改善事項の改善に取り組んでいる。  |       |   |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営規程には、設置することが規定されているが、開催に至っていない。  |       | 関係機関との関わりを持っているので、今後は運営推進会議の開催意義を認識し、参加メンバーの選定などの組織づくりに努力されることを期待したい。 |

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|-----------------|----|---|---|-----|--|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 生活保護の利用者や介護認定更新などで市町村との関わりはあるが、サービスの質の向上などに共に取り組むまでには至っていない。                              |     | 事業所の広報を持って行ったり、行事案内や報告、また、運営推進会議への参加要請を通じて、出来るだけ事業所の内容を理解してもらい、共に地域の介護サービスの質の向上に努める事が望まれる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |   |     |  |
| 7               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている                              | 毎月、利用者の様子を金銭出納の報告や広報とともに、家族に送付している。また、病気やけがについては、その都度すぐに連絡している。                           |     |  |
| 8               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 重要事項説明書に苦情の窓口を明記している。また、会社でサービス向上委員会を立ち上げている。しかし、家族からの要望を運営に反映させるには至っていない。                |     | 運営推進会議を開催して、家族の意見を直接聞いたり、毎月の家族への報告時やイベントの出欠確認時に苦情や要望の記載用紙を入れ送付する等して意見を吸い上げる機会をつくる事が望まれる。   |
| 9               | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 正社員は管理者のみであるため、異動や退職は避けられない。介護度の高い利用者が多いので、利用者に応じて異動を伝えたり、それとなくお別れしたり、不穏を招かないように配慮している。   |     |  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |   |     |  |
| 10              | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 会社が企画する研修が毎月1回あり、順番に参加している。また、デイサービスの看護師による吸引の実地指導を行っている。なお、研修後は、ミーティングで伝達講習をして共有化を図っている。 |     |  |
| 11              | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 関連事業所との交流や研修は実施している。また、近隣の事業所とは、施設長同士の交流は続けている。なお、ケアマネジャーは北部の専門会議や勉強会に出席している。             |     |  |

| 外部                               | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----------------------------------|----|---|--|-----|---|
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |   |  |     |   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応        |    |   |  |     |   |
| 12                               | 26 | 馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居時には家族や利用者にホームの説明をしたり、見学や体験を実施している。また、利用者はデイサービスやセカンドハウスで待機しながら、少しずつ馴染んでいけるよう工夫している。          |     |   |
| 13                               | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 職員と一緒に過ごしながら利用者の言葉や笑顔に励まされ、毎日元気を貰っており、支えあう関係を築いている。  |     |   |
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |  |     |   |
| 1. 一人ひとりの把握                      |    |   |  |     |   |
| 14                               | 33 | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 介護計画作成時に、本人や家族にどのように暮らしたいか要望を聞いていない。   |     | 入居時に生活歴の情報収集を行うと共に、ホームでの暮らしに望むことを本人や家族から聞いて、全職員で利用者の思いや意向を把握することを期待したい。   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し   |    |   |  |     |   |
| 15                               | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 介護計画はきちんと立てている。その後、家族の了解を得て、職員間で共有している。  |     |   |
| 16                               | 37 | 現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 状況の変化や新しい問題がある場合は、ミーティングや昼礼で話し合い、ケアに反映させているが、計画の修正には至っていない。また、6ヶ月の見直し期間が過ぎても見直しがなされていないケースがある。 |     | 介護計画の検討内容は、個人の経過記録に記載し、取り決め事項は、その時点で計画に盛り込むことを期待する。また、6ヶ月の見直しが継続で良い場合は、すぐに日付けと継続することを記載しておくなど工夫して、設定された期間で見直されることが望まれる。 |

| 外部                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|--------------------------------|----|--|---|------|---|
| 17                             | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 受診時は、職員が付き添って送迎をしている。グループホームとデイサービスが同一場所であるため相互に利用することが可能である。グループホームに空きがない時にはセカンドハウスに宿泊したり、デイサービスと併用しながら利用できる機能もある。 |      |   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    |    |  |   |      |   |
| 18                             | 43 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | ホームと提携しているクリニックをかかりつけ医としている利用者が多い。入居前からのかかりつけ医や専門医を希望される利用者は自由に受診している。  |      |   |
| 19                             | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在、終末期ケアは行っていない。具体的に職員や家族との話し合いはしておらず、文章化した取り決めがないが、状態によって家族・主治医に報告して判断したい意向である。                                    |      | ホームでの限界なども含め、重度化し終末期を迎えたらどうするか取り決めを明文化しておくことが望まれる。その上で個別に本人や家族の意向を把握し、主治医と管理者、職員が話し合い、その都度内容を記録に残す事が望まれる。 |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |  |   |      |   |
| 1. その人らしい暮らしの支援                |    |  |   |      |   |
| (1) 一人ひとりの尊重                   |    |  |   |      |   |
| 20                             | 50 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員は利用者をきちんと姓名で呼びかけ、丁寧に対応している。また、仕事上で知り得た利用者の情報を他言せず、プライバシーの保護に努めている。  |      |   |
| 21                             | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 食事などの決まった時間以外は、利用者の意思を優先したケアをしている。  |      |   |

| 外部                            | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|----|--|---|-----|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |   |     |  |
| 22                            | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 朝食以外は外注のお弁当であり、咀嚼・嚥下の悪い利用者には、同じものがミキサー食となっている。利用者個々の嗜好や治療食などの対応が難しく、全介助の方も居るため、職員と一緒に食事を摂っていない。また、後かたづけは、衛生・安全上そのまま業者に返納している。 |     | 利用者にとってこのホームは家庭であることから、時にはデイサービスと離して、好きな献立あるいはおやつを職員と共に楽しむ時間を作ることを期待したい。 |
| 23                            | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 1日1回は、9時から17時の間の好きな時に入浴している。浴室には、手作りの手すりを備え付けるなど工夫している。   |     |  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |   |     |  |
| 24                            | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 以前、クリーニング業をしていた利用者に洗濯物をたたんでもらったり、折り紙、習字などそれぞれが好きな事が出来るようにレクリエーションの工夫をしている。  |     |  |
| 25                            | 61 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 対象に合わせて、週2回位は散歩や外出、買物、ドライブなどに出かけたり、庭で外気浴を楽しむなど、戸外に出かけられるように支援している。  |     |  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |  |   |     |  |
| 26                            | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 建物の入口と居室の窓は、安全面に配慮して少し開く程度で施錠しており、職員全員が鍵を常備している。  |     | 利用者の思いや動作を把握し、家族との十分な話し合いに努め、施錠の弊害についても検討する事が望まれる。                       |
| 27                            | 71 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 火災避難訓練を年2回実施し、1回は、消防署の協力も得ている。なお、訓練の企画実施記録が残されている。  |     |  |

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                     |
|---------------------------|----|--|--|------|---|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |  |  |      |   |
| 28                        | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 昼食の献立はあるが、朝及び夕食の献立はないため、1日トータルのバランスやカロリー、1ヶ月単位での摂取内容がわからない。食事摂取量は、主食・副食でチェックがなされている。                       |      | 1日の献立表が必要であり、1日分の内容を1ヶ月提示し、お弁当業者の管理栄養士を通じて、カロリーや全体のバランスを確認されることが望まれる。 |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |  |  |      |   |
| 29                        | 81 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間の一部が吹き抜けになっていて、明るい雰囲気ではあるが、デイサービスと一緒の広いワンフロアで利用者も多い。両サイドにはソファが置かれ、外にはウッドデッキやベランダがあり、ゆっくりくつろいだり話し合ったりできる。 |      |   |
| 30                        | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 利用者の居室には、ベッド、こたつ、テレビがあり、壁には習字や手作りの編物の小品が飾られ、写真も置いてある。個々が自由な居室づくりができるよう配慮しており、家庭的な雰囲気が感じられる。                |      |   |